



路 政 僧

語る證左。

見給へ、國際聯盟に不加入の米國が

不戰條約の締結を提唱し、軍縮會議は

牛歩遅々、徒に軍備研究に日を送り

つ、あるこゝを、肚裏に海軍擴張計畫

を抱いて人に不戰を勧告する米の非常

識的行爲、ものに爲らぬのは當然、郷

等はモンロー主義に則して列國の事に

干渉する勿れ。

軍縮會議も早く不戰の先決條件を決

定するが可い、之を極めずして人道的

武器と非人道的武器を區別せむとする

如きは、人道と武器、根本に矛盾を藏

す、之では小田原評定と言はるゝも無

理はない、之に乗じてロシアが軍備全

廢案を提議したのも春の眠げ醒し、強

ち咎むべきでなかつた、假令それには

英國代表の言つたやうに他國の内亂を

煽動するこゝ、軍備全廢の矛盾を藏す

るにせよ、會議に一大刺戟を與へたの

はロシアの成效と言ふべく、亦夫れが

軍縮の究極精神茲まで進まずば世界の

平和を維持し能はざるは當然、唯だ提

案者が内亂煽動者なるこゝに依つて信

義を疑はるのみのこゝ。

陽春四月、暖光悠々として絹霞
豔 和平是れ樂むべきのとき、外に
は軍縮外交の秘策を競ひ、内には、政
黨、政權の爭奪に醜鬪す、春にして春
に非ず自然の惠を捨て、迄爭ふ所以の
もの、夫れ鬪争が人類の本能なるを物

▽

△

惱を藏する軍縮—不戰、各國が國際的不信關係に在る現時に於ては、夫れは不可能事、憶、人類個有の鬭争性を奪ふに非ざれば遂に軍縮は不可能か、吾れ之を嘆ず。

▽ △

特別議會目眩に迫るのとき、政民兩黨の勢力互角、何を以て民衆多數の人氣を集中すべきやに苦慮し實業同志會乃至中立連は之を牽制して少數の力に依つて多數政治を支配せむとす、三者の鼎立に依つて純政黨的政治が合理的に行はるれば格別、夫れが行はれない今日は矢張り暗雲低迷、何れに形式的の勝利を興へるかは畢竟頭效の問題。頭效を得る爲には、水火相容れない實業同志會にも腰を折らなければなら

ぬ惱、政權維持の悲哀を覺ゆ、特別議會までには二百五十名を獲るゝ豪語したにも似ず、腰を折つて尙且つ半數に足らない二二六、是が政友會の現有力量、不信任案は十名の差で否決さるゝ言つ

ぬ黨の政策を高調し洞ヶ峠に立つて去就に惑ふ者を説服するを許すのみ、此意味に於て政友、實業同志の合併を許す、曩年山縣や桂内閣の下に行はれた惡徳を繰返す勿れ。

こころが夫等の豪語は國民之を聞き飽いた、併しながら此こは獨り政友會ばかりでは無い、民政黨にしても、議會で議員買収査問會を設置するなぞ、大きな事を言つてはゐるが、互に暗中模索、矢張り政友と同様議員爭奪戰に夢中、何れも秋の夕暮れの感淋しくも亦哀れ。いつまでも理論的に政治の行はれない我邦、假令不自然な多數と言はれても、大に爭奪して第一黨たれ、併し、夫れは切崩し誘拐買収等々惡徳を許容するのではない、自

政權は多數を支持する者に落付くこと、夫れが立憲制度の常態、要は一致した政見所持者の數をより多くするに在る、従つて現内閣に政權を得しむべきに非ざれば、第二黨たる民政黨にも亦政權を得しむべきではない、シーメンス事件で首相、會見した部屋で又候首相に會見したから内閣は瓦解するなぞ、低級な宣傳をするに及ばん、そこまで神經衰弱の症狀に在る民政黨の政權獲得慾も亦憫むべし。濱口總裁の倒閣國民大會に於ける演説にしても、

政友會が會て唱へた重要政策を特別議會に提案せざるを責むるに止まる、固より夫れは不都合であるにしても、唯だ夫 だけに依つては内閣辭職を要求するの理由は爲らぬ、蓋し重要政策の實行を特別議會に限る理由なく、況んや政策の不履行は政民兩黨共に常習犯にして、等しく國民を愚弄したる歴史を有するに於ておや、夫れよりは國民の聽かむさしたるころは、政友會の政綱政策に對する民政黨の意見であつた、之を國民に開示せず、唯だ倒閣に急にして自己の政策の實現を細關係に譲り將來の拘束を免れむとするが如きは、吾れ民政黨の爲に惜む。

多數を得る手段として兩黨新政策の宣言、民政黨は失業保險制度の確立、

勞働立法、小作立法、婦人參政權問題 夫れに治安警察法を檢察制度の改正を以てし、政友會も亦勞働立法を婦人參政權問題、夫れに貴族院制度改革、税制整理、對支外交を金融制度の改善、等々例に依つて十數題目を以てす、假令夫れが婦人の同情やら無産黨抱き込みの魂膽に胚胎した更生への途さしても、其の言や良し、普遍に依つて改造された政黨行動として必ずしも咎めない、が併し、政策の宣言ばかりか能でない。政友會にしても軍務大臣文官制、地租委讓を知事公選等々既に發行した手形債務の履行を忘れ、民政黨にしても例の貴族院制度の改革を忘れてゐる、國民は看板の塗換へを希望するに非ず、既に發行された政策の一つ

でも其の實現を希望するに在る、夫れを忘るゝ勿れ。

政策を更正して議員の爭奪をやつて尙政民兩黨の努力伯仲すれば、再解散亦已むを得ない、蓋し民政黨に政權を譲つても形勢依然、矢張り天下を左右する資格なき少數者に依つて、政治の行はわるのは判り切つたこゝに、吾人は少數專制の如き議會政治の悲慘を嘗め度くないばかりか、事の成否が少數議員の去就如何に懸るやうな政界の不安定を慾せざるに因る、再解散を難する者、少數專制は二大政黨が國家本位の行動を爲さざる場合に於てのみ起ることを説き、少數專制の罪を二大政黨に轉嫁す、併しながら政界の現状を以てしては議長選舉や不信任案の成否はソー法

「學書生論的に解決すべきでない、政民
兩黨ミ少数者の現狀を正觀せよ、絶對
多數黨内閣の安定は横暴を意味し、少
數者に依る政界不安定は其の横暴を減
少せしむる、ミ、言つてゐるの時機に
非ざることを、政界不安定の爲に失は
れ行く國民の利益、政治教科書的意見
を容る、餘地はない。

或者は解散に依つて現内閣の手に依
る選舉を怖る、併し夫れは選舉の手段
に政府黨が國民意思を蹂躪する方法を
採るなきやを憂ひ、選舉の結果が時の
内閣に有利に映ずるものミ速斷するの
誤に出づるもの、夫等は這次の選舉の
結果が之を裏切つたでは無いか、何者
の手に依つて選舉が行はる、やは問ふ
所でない、吾人は、唯だ少数者の專横

を防止して、國民總意の多數が反映し
た政治の實現を希望し、政界不安定の
爲に生ずる國民の不利益を一刻も早く
防止するが爲に、再解散論を主張する
所以。

併し現内閣之を爲すが爲にはモ一少
し緊張するが可い、ここの可否は別
しても、内相が皇室中心主義を高調す
かと思へば、一方に首相の議會中心主
義の高調が顯はれたり、選舉に關する
第二怪文書の流布を否定しながら其の
内容に關する辨明を續述したり、閣員
思想の不一致は内閣不統一の形態を顯
はす、是では國民の信望を失ふ所以、
衆愚に迎合する必要は無にしても、無
理解にも警察的偏見に捉はれて言論を
壓迫したり、皇室中心主義を騎す暴力

團の横暴を看過したりするのは、遂に
民衆を敵とするに至る、是等のことを
慎み共同一致するに非ずむば、卿等は
遂に起つ能はざるに至るべし、心せよ
政友會内閣。

▽ △

交通問題、政黨の政策として論議さ
る、に至る、政友會は産業道路政策を
論議し、民政黨は交通行政の統一から
鐵道と道路、航空と海運に互つて調査
を開始す、是れ程國民生活に直接する
問題は無いに不拘今日まで論議しな
つたのは間違であつた、遅時きながら
事の茲に至つたのを喜ぶ。

兩黨の主張に對する批判は之を發表
のミきに譲る、が併し民政黨が相も變
らず鐵道を主張題目にしてゐるのは、

餘りに型が古過ぎる、時事問題とした自動車道路と鐵道との建設調和など、調和せむとする思想其のものが根本に於て間違、調和すること夫れは自動車道の自然的發達を抑壓することに落附く、黨勢擴張の爲に鐵道を利用する魂膽やら、前内閣瓦解當時に得たやうに地方鐵道の利權を私する下心に胚胎するのならいざ知らず、眞面目に交通問題を論議するなら夫れでは不十分。

▽ △

産業立國策の強調、遂に府縣をして四億四千萬圓の道路改良費豫算を創設せしむる傳ふ、消極政策の爲に封じられたる道路改良熱、現内閣の採る積極政策の爲は言へ亦盛なりと可言。

其の策するところ起債の財源に依つ

て國道と府縣道とを改良し、自動車の交通を容易ならしめて産業の進展に資せむとするもの、吾人積年の主張に合致し欣快に堪へずと雖、其計畫永きは二十年の久しきに亙るもの尠なからざるを憾とす、蓋し大事業の施行に短歲を要求する因より困難なりとするも二十年の前途は今に逆賭し難きもの、折角の計畫も書餅に陥らざるかを疑ふ。

起債償還財源に充當されたる國庫補助金、議會解散の爲に豫算不成立に陥り現年度の支出は國道改良費補助の一部に止まる、併しながら政府は之を以て地方の計畫を否認するに非ず、之を明年度の豫算編制に於て斟酌す、固より當然事、此計畫の生じたる所以は政府の助勢政策に依據するもの、今に

して彼是言ふべき筋合でない、豫算の不成立は或は幸であつたかも知らぬ、ケチな計畫を改めて道路改良法を制定し、繼續豫算を設定して府縣の此要求を滿たせ、國有鐵道の延長等に投資するよりは遂に國家の利益、之を實現すること夫れが現内閣の使命なることを忘る、勿れ。

消極論者は是等道路の改良費等に依つて地方費の膨脹したことを難し、地方費總額十六億五百萬圓は地方財政の破産を齎すと言ふ、併しながら改良に因る地方的利益の増加を打算して後に言ふべきこと、唯だ支出の巨額を觀て悲觀するが如きは吾人の採らざることを、見給へ、地方税源としての公平な地租制度があるでは無いかを。